

調査報告書

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790400034		
法人名	医療法人社団 大杉脳神経外科医院		
事業所名	グループホーム まおの里		
所在地	香川県善通寺市大麻町2080番地1		
自己評価作成日	平成28年9月7日	評価結果市町受理日	平成28年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「施設」ではなく、「自分の家」で過ごしているような、居心地と安心を提供できるよう、職員も入居者様に寄り添い、共に生活するように日々努めている。もの忘れ相談医である大杉保先生の指導のもと、その人その人の出来ることややってみたくらいのこと、持っている力を引き出せるよう、一人ひとりに合った役割や毎日の日課を、明るく笑顔で取り組めるよう、常に職員が隣で寄り添いながら過ごしている。フロア内でもゆったりと落ち着いた雰囲気作りに努め、入居者様一人ひとりの担当職員が中心となり、その様子をご家族様に毎月のお手紙の中でお伝えしている。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社astream alliance		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日	平成28年10月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

地域に根ざした介護・医療の提供を目的にその総合福祉施設の一角を担うのがグループホームまおの里である。地域の利用者を受け入れ自分の家を実現すべく努めている。一人ひとりの利用者に寄り添い一人ひとりの個性に合わせた掃除や家事活動・個別プログラム、利用者が合同で作品づくりと外気浴・散歩などその人が持つその時々を力を引き出している。理事長の「身も心も踊るような施設に」との想いが随所に現れ、人生の最後をお世話する取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 3771600636					
1	(1)	○理念と共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念を検討し、それを目の触れやすいスタッフルームに掲示し、ミーティング等で共有し、実践している	これまでの目配り、気配り、声配りの理念の他に、今年から他部署11か所の目標を月替わりで、毎朝のミーティング時に全員で理念の唱和している。施設全体で各理念を検討し合う体制づくりを試みている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員としての日常的に交流している	地域の公民館祭り、行事に参加。地元の獅子舞や踊り、大正琴のボランティアの訪問、中学校の職場体験等、積極的な交流を行っている	地域の行事への参加、また地域の方々がボランティアとして大勢訪れている。また日常的な交流もみられる。2校の中学校に職場体験をしてもらい、先日ラジオの放送もされた。また、定期的に機関誌を発行して施設での様子が家族や地域に伝えられている。さらに、ご利用者の自治会清掃活動への参加も検討されている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事(公民館祭りや文化祭)等へ、入居者様と一緒に参加。事業所だよりや家族への面会時、家族会の際に、支援の状況や方法をお伝えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。市担当者、利用者様とその家族、民生委員等、地域の様々な方の参加を頂き、利用者様の現状を写真等を使用し、活動報告を行い、情報交換が出来るように配慮している	2か月に1回実施する運営委員会の参加者は多く、利用者達も参加する。参加者がわかりやすいように写真やビデオで見たりして、会議が和やかに進行している。ロボットのペッパー君を施設に導入しており利用者には好評な様子である	
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市高齢課担当者や地域包括支援センターの方にも、運営推進会議に参加して頂き、実情を把握し、ご意見を頂く等、協力関係が心がけ築いている	運営連絡会議には市担当者や包括支援センターの職員が必ず参加しており、協力関係が築かれている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	支援方法について、カンファレンスやミーティングの際に、職員全員で検討し、身体拘束のないケアを努めている。利用者様の安全第一を考えると、施錠を必要とする時間もある。天候にもよるが、ほぼ毎日午前中は、南側の入口で外気浴を行い、気分転換ができるよう職員が見守りを行っている	施設の立地上、幹線道路への外出には職員の見守りが必要で、安全確保上玄関はオートロックのシステムが活用されている。比較的軽度の入所者が多く、ほぼ毎日外気浴や散歩が行われており、歩行の訓練とストレスの解消が図られている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中、利用者様を第一に考え、スタッフ間で言葉かけやケアの方法について、ミーティング等で話し合い、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、実際に後見人制度を活用されている方がおられ、入居者の状態確認にも来られた。研修等の機会には参加し、他の職員と情報共有するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項を説明し、了承を得た上で契約している。不安な点や疑問点、制度改正がある場合等、親族の方にも一緒に説明を聞いて頂き、同意・理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様が面会に来られた時や遠方のご家族様には、入居者様の状況報告を電話にて密に行い、伺ったご意見や要望を運営推進会議などで報告している。手書きの手紙を書いて送っている	利用者の様子に変化があるときには早急に対応し、家族とは電話連絡などを密に行い、その中で意見や希望があれば、職員や管理者に伝達し、運営推進会議などで報告している	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議や毎日の朝礼時、必要に応じてカンファレンスやミーティングの場を設け、職員間で意見を提案し、申し送りノートを活用し、情報共有している	毎月1回の全体職員会議や毎日の全体の朝礼時に必要に応じカンファレンスやミーティングで職員間で意見交換し提案している。申し送りノートで情報を共有している。職場には頻繁に管理者や代表者が訪問している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と責任者は、日頃からコミュニケーションを図り、何でも話せる関係である。責任者は、管理者に皆の思いを伝えるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修はもちろん、外部研修の情報も回覧し、個々の自主的な研修参加を促している。研修後は、研修資料を回覧し、職員間で共有できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加し、研修や交流会などには積極的に参加するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用(入居)前に、見学に来て頂き、利用者様のご要望に対応できるよう、本人様とお話する機会を設け、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、本人様、ご家族様に見学に来て頂いたり、事前に不安や要望をお聞きし、よりよいサービスにつながるよう取り組んでいる。ご家族様とのコミュニケーションを大切に、遠方に住まわれているご家族様には近況などを電話にてお伝えしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族の意向をしっかりと把握し、安心してサービスを受けることができるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にし、「共に暮らす」という意識を持ち、教え合ったり、支え合ったりしながら信頼関係を築いている。甘酒作り等教えてもらい作っている。掃除、配膳を共にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちに寄り添い、ご家族様の意向を聞きながら、本人様と良い関係が築けるようにし、ご家族様に面会に来て頂いたり、できることは協力していただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、知人、友人の面会時には、ゆっくと過ごして頂くよう、居室やフロアでの雰囲気作りにも心がけている	普段は家族が利用者を連れて買い物などに外出している。面会時には室内でゆっくり過ごせるよう配慮している。入所者の何十年来の友人が遊びに来てのんびり過ごすこともある	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居様のできることで、できないことを把握し、その方の持っている力がいかせるように、家事活動や行事、レクリエーション等に声かけし促したり、一緒に行ったりしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先にお見舞いに行ったり、ご家族様に会った時には、様子を伺ったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者様の表情、雰囲気を見て、接している。聞く時はもちろん、話しかける時も、相手の気持ちを引き出すことを心がけている	口頭より利用者に寄り添い、話を傾聴して、その様子をノートに記入し職員間で共有している。些細な変化等を察知し、本人とゆっくり話を聞くなどストレスを残さないように支援されている。生活の中で花づくりやおやつ作り、作品づくりが行われており、利用者の思い出話に出てきた甘酒づくりなども実践されている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様からこれまでの様子などをお聞きして、お一人おひとりの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動・言動を状況に応じて記録に残している。ミーティング、カンファレンスでそれぞれの気づきを話し合っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の生活状況を観ながら、必要に応じて家族に連絡を取り、相談して、それらをカンファレンスを通して作り上げている	利用者のこれまでの暮らしや思いを大切にしたい生活の継続性を重視して、家族や本人多職種の職員全員参加でのケアプラン作成がなされている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子などを記録し、申し送りノート等を活用して、情報を共有し、ケアに反映するよう心がけている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様のやりたいことをよく聞いて、ご家族様と相談して、無理なく出来ることを、出来る限り楽しく取り組んでもらえるよう考え、行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの人生で気に入っていたこと、現在興味のあることを大切に考えていく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際し、主治医を確認し、希望される医療機関を受診している	主治医の確認をしている。主治医以外の受診では家族への支援がなされている。最近では近隣の医師が往診してくれることが多くなっている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連絡を密にし、健康状態を共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係機関との連絡を密にし、スムーズに対応が出来るよう心がけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、主治医と話し合い、ご家族様の意向を尊重し、本人様、ご家族様に寄り添った対応をしていきたいと考えている	主治医の判断を基本とする見取りに関する指針を明文化している。看取りに関する事例はない	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	バイタルチェック、状態把握を行い、主治医に報告して指示を仰いでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。夜間時の発生に備えて、迅速に行動できる訓練、関係機関との連携について確認している	所定通りの火災避難訓練は実施している。利用者の災害時の避難訓練や備蓄については自然環境変化から多方面の対策が必要になっている	環境の変化に伴い増々災害への備えが重要と考えられます。火災に加え、水害対策・地震対策など他施設や自営消防団なども協力した、訓練を通じてさらに防災力の強い施設づくりに期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり(トイレ介助・入浴など)の中で、声かけや言動に配慮すると共に、ケース記録の記入や個人情報の取り扱いの徹底等に努めている	利用者と職員の距離が近く和やかな雰囲気がある。一人ひとりの個性を把握しており、本人のこだわりやプライドも理解している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話の中で、思いや希望を探ったり、一人ひとりが自分でできるような場面を提供、自分で決定できない方は、その方が望むような思いや希望を提供できるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で、個々のペースに合わせ、その日の体調や気持ちに配慮しながら、支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床・入浴・食事・就寝など大まかに定めているが、その時々希望や体調により、臨機応変に対応している。定期的に訪問美容を利用し、本人の希望を伝え、カットして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な盛り付けは入居者様と職員が一緒に行っている。職員も入居者様の間に入り、会話をしながら、一緒に食事をとるようにしている	料理は一か所で作られ、盛り付けや片づけは利用者と職員が一緒に行く。食事は一緒に食べ、あちこちで会話が弾んでいる	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する厨房から、栄養バランスを考えた献立が調理されている。キザミや一口大、肉禁など、食材や形状の変更も可能で、対応している。朝、コーヒー牛乳や甘酒など、時候に合わせた飲み物を提供している。1日の水分量をチェックし、記録・情報共有している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。義歯の人は、洗浄消毒(ポリドント)を就寝前に職員が預り行っている。自分で口腔ケアを行えない、理解できていない入居者様に対しては、洗面台まで声かけし誘導。職員が声かけ指示、介助しながら行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、対応に努めている。排泄表を確認し、トイレ案内や声かけ等を行い、失敗の回数を減らすよう努めている。尿とりパットの種類や声かけ、居室内にポータブルトイレを置くなど、個々に合わせた対応を検討している	トイレ誘導に気を使い、見守りもカーテンの外で待機するなど、プライドが傷つけられないよう配慮されている。また、利用者の排泄時間に合わせ、職員の休憩時間を変更するなど工夫がなされている。さらに、日中の活動時間を増し夜安眠できるような生活リズムの構築が図られている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ミーティングなどを利用し、原因について、飲食物・運動(歩行訓練や体操)・服薬などを話し合い、工夫している。便秘がひどい方については、医師や看護師の指示により、排便促進剤や座薬を服用し、排便を促している。排便・排尿状況については、記録し情報共有している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	洗身等、自分で出来ることは意欲的にして頂き、出来ないところは介助、見守りを行っている。入浴のタイミングは本人の状態を見ながら適宜変更している	入浴は希望があれば毎日でも可能で、利用者の希望が多い午前中に実施している。介助が必要なところのみ関わりあとは安全に配慮して見守りをしている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお昼寝時間を設け、お昼寝される方はして頂き、夜間の就寝時には居室に誘導。本人の体調や生活習慣、気分に合わせて入眠を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報の把握・理解や整理場所を全員が分かるようにしている。受診時、付き添い職員が、医師や看護師に、本人様の状態や食事水分量、排泄状況を報告。申し送りノートにて、職員全員に分かるよう情報提供している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動(モップかけや洗濯物干し、おぼん拭きなど)やプランターでの野菜作りなど、個々が取り組めることを把握し、達成感を感じるように心がけている。季節に応じて、外出や散歩・外気浴を行い、気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の健康状態、季節により外に出て、外気浴や散歩などを行う時間を増やしている。外出後は、一人ひとりに感想を聞き、改善点を把握するようにしている。月に1回程度、家族の協力も得てドライブし、季節の花々や寺院等をめぐるなど外出支援を行っている	外気浴はほぼ毎日行い、農道散歩中に近所の方からお花をもらうなどのお付き合いがされている。また利用者の希望を聞いた季節感を盛り込んだ外出が月に1回程度実施されており、ほぼ全員参加している。また、思い出は写真に残しご家族などにも送られている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭所持はトラブルの原因となるため、家族にいくらかの金銭をお預りさせて頂くことを入居時に説明し、外出時や訪問販売にてご自身で支払う機会を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人に季節のはがき(暑中見舞いや年賀状)や手紙をお送りし、近況をお伝えしている。希望により、電話の利用に応じている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みに合う音楽を流したり、季節に沿った共用空間の室温の配慮、また草花を飾ったり、入居者様と職員で毎月制作している壁画作品を貼って、明るい空間を心がけている	日当たりのよい南側のフロアでほぼ全員が一日を過ごしている。そこから外気浴に出かけたり洗濯物を干したりする。壁面の一角には職員手作りの畳敷きのコーナーがあり、上にはこたつがある。壁面は利用者の写真や合同作品・折り紙作品や四国八十八か所の霊場巡りなどを展示している	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、一人ひとりが落ち着いて過ごせる席の配置を工夫している。テレビ前を広くし、集まりやすくゆっくりと過ごせる空間作りを心がけ、配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活に活用していた物を家人に頼んだり、フロアを楽しく掲示することで心地よく過ごせる空間作りを一緒に考えている	居室になじみの私物を持ち込むことは可能である。フロアの居心地に特に配慮されており、日中はフロアで過ごす利用者が多い	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は分かるように大きな字で表示している。私物、席に分かりやすいように名前を書いたり、個人個人の状況に応じて考え、配慮している		